

令和元年度(平成31年度) 学校自己評価表(報告)

学校運営計画			
学校運営方針	意欲的に自分の夢を育み、その実現に向け確かな学力を身に付けさせ、国際的な視野も備えて、社会に貢献できる人間の育成を目指す。		
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標	
成果 ①国公立大学合格者数は昨年度より大きく下回ったが、東北大学や北海道大学名など、難関大学合格者を出した。 ②特別支援教育体制がより充実し、支援を要する生徒に対して、全職員で組織的に対応できた。 ③部活動においては、生徒がいきいきと活動し、少林寺拳法部、書道部は全国大会出場を果たした。 課題 ①学力の向上 基礎学力の定着を図る。特進クラスの特色化を図る。センター試験得点率60%以上の生徒数の増加を図る。 ②目的意識・意欲の形成 3年間を見通した目標を立てさせ、意欲を醸成させる。 ③人格の完成 生活習慣の形成、社会事象に対する興味関心の育成、徳育の重視。	計画的な進路探究を通して、進路目標の明確化を図る。	①3年間を見通した進路探究活動と高い志の育成。 ②「総合的な探究の時間」による論理的思考力・判断力・表現力の確立。	
	進路目標達成のため、学力の向上を図る。	①学習習慣の形成。 ②基本事項の精査と反復学習の徹底。 ③わかりやすい授業、考えさせる授業、双方向性のある授業の実践。電子黒板をはじめとするICT機器を活用した授業の展開。 ④社会に対する興味関心の育成。	
	・挨拶の励行を基軸に基本的な生活習慣を確立する。 ・部活動・学校行事への主体的な取り組みを通して、健全な精神と粘り強い精神を育成する。	①挨拶の徹底を図る。 ②交通マナーを遵守させる。 ③健康維持と体力の増進を図る。	
	・保護者・地域に向けて情報提供を積極的に行う。 ・地域社会との交流を通して生徒の社会性を培う。	①秋陵会総会、親師会総会や進路講演会、学年懇談会等のあり方を工夫する。 ②ホームページや会報の充実を図り、学校の教育活動を積極的にPRする。	
	具体的目標	具体的方策	評価
(教務)	授業時間を有効的に使い、確かな学力をつける。	十分な授業時数を確保できる年間行事計画を作成する。	A
		行事予定や日々の日程・時程をわかりやすく提示し、計画的に行動できるようにする。	B
		授業変更を促し、自習時間を削減する。	A
	正確な事務処理を行う。	各係の責任と協力(チェック)体制を明確にする。	A
(生活指導)	規範意識の向上	無断での早退・外出を防止するために必ず届けを提出させる。また、時間厳守の指導を行い、けじめある生活をさせる。	B
		各学期はじめに2週間の登校指導を実施し、服装の指導を中心に、挨拶の励行を行う。	B
		1・2学期に学校付近の主要3ヶ所で約2週間の通学指導を行い、バイク・自転車の乗車マナーを指導する。	B
		バイク通学に対して、交通安全講話と2回のバイク講習会を実施する。	B
(生徒会指導)	生徒の自主性を育むため、生徒会係で助言等をし、活動の活性化に努める。	生徒会新聞を発行し、生徒会活動について生徒に広報活動を行い、行事等の活性化に努める。体育祭や秋陵祭等の行事について地域への案内も積極的に行う。	B
	各種行事の充実を図り、それぞれの生徒が主体的に参加できるよう指導する。部活動への主体的な取り組みを通して健全な精神を育成する。	代議員会及び専門委員会を通して、行事等の説明を分かりやすく伝える。クラブ紹介、クラブ登録、部活動単位での学校行事への参加により部活動の活性化を図る。県総体および県外上位大会の壮行会を行い、部活動等で頑張っている生徒を全校あげて応援する。	C
(保健環境)	生徒各自が自主的に健康を保持増進する能力と態度を養う。	定期健康診断で健康状態を把握させ、事後処理を行う。日々の健康観察を行い、それに即した保健指導を実施する。	B
	心の健康に問題を抱える生徒への支援を行う。	多面的に情報を集め、予防的で迅速な対応をする。	B
	学習環境の整備改善に努める。	清掃点検を常時行い、平常清掃の徹底を図る。また、大清掃及び屋外大清掃を実施し、校舎内外の美化整備に努める。	B
	非常時の適切な対応。	避難訓練を実施し、生徒の安全誘導と人命尊重の精神を養う。救急法講習会の実施。 5月:心肺蘇生法、AED実習 7月:熱中症対策	B
進路実現(進路指導)	生徒の進路志望を明確にさせて、現役での進路志望を実現させる。	生徒面談や保護者面談で生徒の希望を明確化する。土曜講習や放課後講習を利用して、基礎学力の定着に努める。各回の模試を分析して、次回目標を各教科で設定する。各学年の進路便りを年6回程度発行する。	B
	進路情報を全職員で共有して、個々の生徒に対する的確な進路指導を行う。	生徒面談、三者面談で生徒の目標と学力を分析して、国公立大について全国を視野に入れさせる。 土曜講習や放課後・長期休業講習で、レベルごとに上位者に対して個別指導を行う。	A
		各回の模試の結果を分析して、生徒との面談をこまめに行い、受験の計画を指導する。	A
			A
地域との連携(渉外情報)	地域と連携したPTA活動を活性化させる。	早い時期から総会の案内を出し、多くの参加を促す。	B
	教育活動の情報の発信	行事毎に、できるだけその様子をホームページに掲載する。	B
	図書館活動の充実	図書館だより等を活用して情報を発信し、利用を促進する。	B
	創立100周年記念事業実行委員会を立ち上げる	同窓会、親師会、校内と連携を密にするとともに、他校の記念事業を参考にし、本校の実態に合わせ、各分野の仕事内容を明確にし、活動を活発に行えるようにする。	A
(1学年)	進路意識および思考力・判断力・表現力の育成	面談を通じて、学習習慣、教科ごとの学習方法、将来の進路についてなど、具体的に指導・助言する。	A
		各教科の授業・総合的な探究の時間・LHR・学校行事等、学校においてのすべての活動を通じて、論理的に考え、判断し、表現する力を育成する。	A

	基本的な生活習慣の確立および文武両道の推進	頭髪・服装検査を定期的実施するとともに、携帯電話・スマートフォンの適正な使用法を指導する。また、時間を守ることや提出期限を守ることの大切さを指導する。	A	A
		時間を守ったきびきびとした部活動をする事によって、学習と部活動の両立を実現させる。	A	
	生徒理解および生徒面談の充実	個別面談を充実させることで、生徒の悩みや困難にきちんと共感や理解を図る。また、職員間で情報を共有し、組織的に対応する。	A	
(2学年)	基礎学力の定着	面談を通じて個別に学習習慣(3点固定、教科ごとの学習方法等)について指導・助言する。学習課題量の教科バランスにも配慮する。	B	B
	発表力・表現力の育成	修学旅行における研究機関の訪問や学習の機会、探究活動のグループ発表も発表の場として活用する。秋祭りにあたる学級の企画等も、適切で効果的なPRについて工夫させる。	B	
	生活指導の徹底	人権的な側面だけでなく、基本的な生活習慣や学習習慣の定着のためにも、携帯電話やスマートフォンの適切な使用マナーを意識させる。	C	
	文武両道の実践	活動の時間厳守や個別面談における助言・指導によって学習と部活動の両立を高水準で意識させる。	A	
	生徒理解の充実	出席状況にも留意して生徒を観察・コミュニケーションを多くとり、問題を大きくしない。職員間で情報を共有し組織的に対応する。	B	
(3学年)	自己実現に向けての進路希望の実現	規則正しい生活習慣の中で自宅学習時間を確保させ、大学入試に対応できる学力を養成する。	A	B
		生徒個々に適した進路指導を行い、必要な情報を十分に与えることによって、一人一人の希望進路実現を目指す。	A	
		各教科の授業を大切にさせ、自分に適した学習スタイルを工夫することで苦手科目を克服させる。	A	
		安易に第一志望をあきらめさせず、二次試験に向けて複数教員でサポートする。	B	
		本格的な受験勉強への切り替えを早期に意識させ、後期試験までのスケジュールを把握させる。	B	
(国語)	基礎学力の定着と向上	現代文分野・古典分野の2つの小テスト実施日が重ならないように設定し、効率的な予習・復習を促す。 小テストの合格基準(80%)に達しない生徒について、個別指導を行うことにより基礎学力の重要性を理解させ、実践力の養成につなげる。	B	B
	大学進学に向けた実践力養成	古文単語・漢文用字・漢字の小テストによって基礎力を高める。授業・各補習講習・特編授業を入試に対応できるように充実させる。個別指導を積極的に行う。	B	
(地歴・公民)	基礎学力の定着と向上	資料活用能力を高めながら、主体的に探究する姿勢を涵養し、思考力・判断力・表現力を向上させることで、知識・理解を深めさせる。	B	B
	大学進学に向けた実践力養成	平日講習・土曜講習・夏期講習・特編授業等を通じて、大学受験に対する意識を向上させるとともに、問題演習により学力向上への意欲を高め、志望校に合格する実力を養成する。	B	
(数学)	基礎学力の定着と向上	授業内容を充実させる。	C	B
		各種課題(平日課題・週末課題)および小テストの実施により、基礎学力の定着と向上に努める。	C	
		長期休業中や放課後に補習を実施し、成績上位層および下位層のレベルアップに努める。	B	
	大学進学に向けた実践力養成	センター試験の対策問題に取り組みせ、問題解決能力を磨く。直前には実践問題を繰り返し実施する。 土曜講習、長期休業中の補習や学習合宿で入試問題演習を行い、入試問題に対応できる学力を身につけさせる。	B	
(理科)	理科的な見方・考え方の醸成	教材開発や授業公開等を通して、授業改善と指導力の向上に努め、また、実験・観察を取り入れた理科的な見方・考え方を深めさせる。	A	A
	基礎学力及び大学受験のための実践力養成	知識に重点を置くだけでなく、結果が導かれるまでのプロセスを重視した授業や実験を行う。授業や夏期・冬期などの補習、特編授業の問題演習を通して、生徒の実践力の養成を図る。	A	
(保健体育)	自らの健康を管理し、改善・向上していく能力を養う	社会における我が国が抱える健康問題・環境問題等の状況を具体的に把握させる。生涯の各段階における健康・安全に関する課題への対応、保健・医療の制度や機関の適切な活用について理解を深める。	B	A
	基礎的な体力・筋力の維持・向上	年間を通して、各種目に応じた補強運動や準備運動を実施する。体力向上の目安としてスポーツテストの各種目において県平均を上回るようにする。	A	
(芸術)	豊かな情操の育成	素材の見分け方や生かし方を学ばせ、それらを生かして創作・演奏したり鑑賞したりできるようにさせる。	A	A
		ICTを活用して、質の高い作品に触れさせたり、資料や情報を提供し、生徒の意欲・興味を喚起する。また、作品の背景となる文化や歴史についても理解を深める。	B	
		発表する場を設けるとともに、創作意図を発表させ、互いに批評し合うなどの言語活動を重視させる。	A	
(英語)	基礎学力の充実と向上	授業に意欲的に取り組み内容をよく理解させるよう、授業の改善を図る。家庭学習を充実させるよう、適切な内容の課題を課し、小テストを計画的に行う。1・2年生ではコミュニケーション能力育成に向けた指導の一環としてスピーキングテストを行う。	A	B
	大学入試に向けた実践力の養成	土曜講習、平日補習や長期休業中の補習を通して実践力の伸長を図り、進路目標の達成を目指す。センター試験や個別大学入試問題の分析・研究を行い、日頃の授業に反映させる。	B	
(家庭)	生活に必要な知識と技術を身につける	学習内容、師範のしかた、プリントの内容を工夫し、できる限り個別指導を取り入れる。	B	B
成 果	重点目標の達成に向け、各部・学年・教科で組織的・計画的に取組み、総じて良好であった。生徒の学力向上については、各教科とも成果が上がっており、国公立大学に109名の合格者を出し、学力の充実、進路希望の達成を果たした。次年度は、さらに授業改善を進めるなかで、取組みの一層の充実を図りたい。			総合評価 B